



大岡 元岡維則著
 政談 村井長菴調合机
 三編 中

873
8



873
8

大岡政談 井長庵調合批卷之八

東京 元岡維則編次

十一
三

第十五回 直士閑窓に少年と説諭を

霜雪に覆はるる樹も時をまよはせぬまに遠く有り。人間の世態
窮厄困乏時有り。免るもあらずに何らせず。去るべき人の伴帯の
窓に奉公せり。日ごとく。能く身を教へ。勤の道意を事せり。殊に
其性高き。たゞ才活け色ばきの五々清志を愛く。菊を
目と御使ぬるに久し。此窓に成長して。多量の勤勞を積み。
後ら之管にまよふ。磨揚り。見世の事共業を指揮し。物事の要
大金の取引も自ら代り。皆色も。心任に進退し。ぬえり。富

873
8



大岡政談卷之八

二

辰栄堂蔵版

豪ある家の。益々や忠ある久八老實の心を固くし、家
 次實に富貴入たり。然るに何名実者らぬ五三流一太子の虧
 る久八夫婦が中れ跡を継ぎべき子なり。老意に及びたる身
 のお徳人としてあるも、此の亦有誰はう流さん迷く者子と世の
 老後の一憂と脱せんもの久八に相成成され久八も自らの根
 を推し、此事と強に肝要の計ぞに候ふべし人の撰まざるを
 有るべしとざるの道をおお密々の人に秘秘有る。能き者と世の
 名人なり。僕も控寛く心掛んと懸くつ是より者子と奪く東元
 たりしに去る者有て甲州屋千之助が子息千太郎と世の久八と
 勧めたり。久八是に於てまた代り密に千太郎が流儀を撰むに

しては、僕も控寛く心掛んと懸くつ是より者子と奪く東元
 二十代にありたり。五三流此中を尋ねて流儀に於て、年々今
 八代も世の人心裏とあり。竟に媒妁と称して千太郎と世の
 更路目の者子とありぬ久八、我身するも、八代に於て初
 らぬ。忠義一徹ある心中千太郎が年々くして彼等と夫々人
 ると憂ひ殊更に計算尖ある五三流が平生の爲とあり。儉と
 守り費と省く。商家の爲来小仕伎が心に堪へ難きとも
 久八は心に死つ。折く、我身先より、小迷の金と與へ密に況
 論を加へく。逃ちの喜らんとけるに、世の久八は、文書番家の物自
 由ありたる中も千太郎辛抱して、二三年を送り居る。時に、

三年の春より。三月の四日、八年の商家の春會とて、同家の
乃、賈人西國から系八の橋よに集會し、種々商法の相談を
せし。是昔よりのはり、まうとそ、あまの集會、五、五、病に依て出
席者、雖く千太郎を代を勤め、始ては、日、冬、會の場、に赴く
べきに、定めぬ、形も、は、同、高の、面、く、伊、勢、屋の、格、を、惜、み、此の、事、會
は、喜、子、の、千、郎、を、代、と、ま、さ、る、の、由、を、術、へ、傳、ひ、り、き、這
奴に、若干、散、成、を、成、さ、し、め、ん、と、遊、人、は、較、計、を、議、し、合、せ、ら
千太郎、を、ま、さ、る、と、待、に、り、も、ま、く、千、郎、を、主、席、の、頭、職、を、ま、さ、し、
系八の、酒、亭、に、赴、き、て、満、座、の、人、々、に、接、接、も、高、子、の、接、接、
終て、酒、堂、を、破、け、教、刺、を、給、く、千、郎、已、に、送、り、ん、と、成、せ、し、

と、事、物、に、な、る、面、も、時、の、勢、ひ、に、依、り、今、う、り、ま、ま、に、赴、き、興
を、催、し、て、愉、快、と、極、め、ん、と、接、接、も、千、郎、に、因、り、舞、し、我、が、喜、子
乃、事、を、わ、ら、ぶ、氣、持、を、ま、さ、り、此の、較、計、を、免、せ、さ、る、と、再、三、め、し、
も、衆、の、人、々、脚、も、圓、い、ま、ま、苦、笑、を、あ、ら、わ、せ、り、我、が、引、ま、さ、る、
和、後、を、送、り、し、て、成、ら、る、極、計、の、は、せん、安、ん、有、る、べ、し、い、ま、
迷、し、し、み、程、に、勤、め、俄、に、輕、也、と、浮、め、し、二、三、谷、に、あ、る、を、一、瞬、に、
志、系、を、な、す、け、り、わ、ら、も、花、の、盛、り、に、自、を、駭、く、と、那、回、の、接、ひ、
心、利、の、人、々、も、ま、ま、七、折、の、意、を、ま、さ、り、て、彼、の、了、り、を、推、し、
揚、り、誰、に、憚、り、ま、も、ま、く、歌、舞、傳、達、の、接、興、を、い、成、り、に、け、り、お、千
太郎、が、娼、妓、の、昨、日、裏、中、に、成、り、小、お、お、を、ま、ま、と、ま、ま、に、別

たる通客高嶺へ登りてやむ名と合ふら成たり抑野の娼妓の
 十之九が娘の雉文ゆく標致衆に秀たる羨婦をねば綾羅の
 衣紅粉の粧に幾許の麗艶と塔。舞妓花あふる此世のつら
 に於客一顧して魂と死の風情有り。自他の引ゆるはやふち郎
 けらむも不意なる遇知しより。迷に悟るぬ中とあり。於る
 終つて。き目の苦味昏れ入るとは。世を去るや。道に迷り
 うと。忘る心まのち。小世を何おもく。今をばと思ふ
 心の通せしや。人目をも忍んで客に。紅塵と分け。やむ名と
 揚ぐ。登り橋ぬばに及びけし。やむ名も心の通せしや
 分け。妻福世に形をまじへ。守。使りて。心ひぬ。思のこね

けり。ゆきまがく情とと掛たりと。花の頼に涙と涙。袖と袖
 て口元たる。国裏の密法入生ね。傾城の身と成る。むを。生涯の
 苦味他ふ由る。一双の玉子千人の枕。まゝの床。客骨つらさ。動
 のま中に。愛と慰む情。活も持む。と。只個傾城に。成り。何
 人の語を。玉子の四角をけし。傾城。雲。滅。実のま。中。有。ん。君
 か心根。愛らむ。まのま。神。け。と。雨に。遠。る。名。橋の。秀。星
 け。あ。る。有。梅。ふ。ま。郎。合。心。ろ。恍。惚。と。魂。ま。橋。と。放。る。と。り
 旅。い。ど。お。り。芸。父。初。有。く。一。間。に。即。ち。眠。る。に。関。係。せ。ざ。る
 と。昔。ひ。に。通。ふ。お。の。ま。く。偶。ま。宅。に。宿。外。を。せ。バ。丁。稚。の。膝。を。
 壳。の。ま。宿。と。思。ふ。れ。大。の。ゆ。る。お。り。按。摩。の。味。を。教。る。お。の。為。体。と

五々諸家に見せ、大に怒り、忽地論と起して、離縁せんことを
せしむ。世の久く極に主人と宥め、を郎に只の常異見を加
て、一方ありて骨折るわが五々諸家に心とあらげ、若くは心
の連ひの有りものあり。此後を情まて夜はあきまへ、とて控へ
脱論なり。離縁の沙汰とて止りたり。千を郎少く、世の是たる
ゆく頻りに後悔色。是より死部へ通ふと止りるごと。形もこれ
別滞二世も夫婦の契約せし二人が中、争う長く思ひ滞むる
るをばん。小松夜を長く花街に動をせむ、あにこれに
我此家の海目を續き、さるごとく小松夜を身交や。此の事と定
めんおと。世に月更の工更と成。發て大令に係る、と起る

あわが身持をまほしく成し、用るぞ良策ありと。そが清に郭へ
むる事と為さうけし、いふま清い更く久も大に安堵成し。控
も心と相ひく。再び過更の身くらん思慮と運しぬ千を郎の福情を
思ふ極小松夜を身情せん、今慮の時日を返さとも容易く成る
べき留まかり。あにの人の肉くらんが難事より迎は心易く成り
一佳永氏こそ、酸も甘きも、茶の人情に通しおの南後に成る
べきの人多し。夜小松に赴て心中の密事を物留り。今の中元
と頼とせん。嗚呼、結き来に知也と成よりと。竟に心決し。或日
地中の序を、千を郎が家に宿ひ、暫く雑言と成しつ。後小
小松夜と二世の契約せし始終と述べ、何れも執着心止む

難く。受出して我そのと成し。度思ふく先生。能く行葉あり。ら。我為に示し。あはれいと。只管に商賈を成しに。る。左一郎。て夜。て眉根を。あせ。こは。芭蕉。あき。る。あ。傾。傾。藝。技。の。危。と。妻。こ。成。さ。い。家。の。為。あ。る。も。止。む。に。や。く。る。あ。け。き。も。男。女。の。違。ひ。若。好。ま。この。む。不。有。く。知。り。つ。迷。ふ。い。尚。今。暫。き。有。る。を。と。る。豪。商。乃。貴。子。ち。る。和。後。郭。と。出。さ。ち。む。る。金。策。免。も。角。も。成。べ。け。き。と。至。て。堅。く。し。し。し。し。し。し。父。の。氣。質。受。出。し。と。後。と。あ。い。う。家。に。い。も。妻。と。室。あ。ん。汗。流。の。り。思。ひ。も。あ。ら。し。ま。さ。さ。さ。窮。計。を。施。し。絶。家。に。居。し。又。家。と。持。し。め。く。困。ひ。も。終。ふ。い。事。故。生。し。て。出。父。の。怒。と。受。け。身。の。進。退。に。も。及。ぶ。災。福。と。成。らん。後。の。考。へ。暫。く。

と。受。出。さん。に。弟。の。代。廉。う。ま。ま。い。の。其。令。如何。ある。と。大。い。や。う。其。ま。と。合。せ。ら。る。と。い。い。つ。若。郎。頻。りに。頭。を。撞。き。然。わ。び。あり。受。出。さん。に。丸。二。百。圓。の。上。あ。る。べ。し。後。の。り。あ。い。れ。も。尾。と。濡。さ。る。の。跡。あ。る。と。言。ふ。當。り。自。身。の。令。に。受。取。ら。る。先。生。を。目。撃。す。の。程。と。別。の。り。に。誰。も。何。も。の。受。取。り。と。も。あ。ら。な。い。と。い。ふ。と。百。圓。計。の。令。と。都。合。し。ら。う。と。ん。や。某。か。あ。る。程。書。き。し。る。期。日。迄。波。辞。金。せん。と。程。と。い。ふ。に。左。郎。大。いに。笑。ひ。お。後。家。の。子。と。有。あ。ら。う。と。百。圓。の。令。と。人。程。と。い。ふ。才。先。せん。と。い。ふ。如。何。も。程。を。今。箱。身。に。し。て。誰。の。散。令。も。入。ら。な。い。別。へ。内。の。背。尾。直。し。身。中。ま。ま。大。令。我。自。由。や。も。揚。る。や。二。個。の。女。と。も。に。金。を。其。が。

為に目くの程費も甚しき事ありて家主人の怒りを受るは
 連いざる事あり。事ごとく命成るべしや。是れと傳へざるの
 君偏く物前後と括り。以先と考へざる。智者と云へば。予と
 況論あやふ太郎以論とす。然然とて。驚く事あり。稍思
 奮して再び申す。僕早と云へば。二百圓の金先成す。後
 有り。此る先生に難と自覚へまに。地を。毛。此。夜。い。更。出。我。若。と
 成さぬ。い。男。の。ま。る。子。細。有。り。預。く。八。機。が。形。と。容。ろ。り。の。莫。大。の
 山。君。あ。ん。と。連。て。の。信。頼。に。お。希。傍。も。机。と。礎。と。お。和。後。物。に
 相。違。て。ぬ。お。あ。い。の。伊。勢。屋。が。家。と。ま。に。ま。り。お。后。が。一。刺。を
 押。し。且。我。知。色。の。甚。家。に。高。後。成。さ。い。こ。百。圓。の。金。も。地。に。懸。ハ

ん。然。う。と。い。ふ。も。方。に。疑。が。い。ま。一。事。有。り。何。と。あ。ら。ん。お。后
 半。年。の。後。辨。令。の。湖。有。る。に。富。家。の。子。に。有。る。何。を。今。も。と
 縮。め。ぬ。地。人。に。金。と。借。る。謀。と。論。ん。と。密。察。する。に。今。の。虚。後。が
 是。一。我。以。令。と。替。へ。て。和。後。に。渡。さ。ば。後。を。送。ら。さ。す。も。後。百。圓。の
 金。の。自。和。後。と。我。と。隣。と。論。も。も。甲。斐。あ。ら。ん。必。と。落。付。て。我。が。論
 況。と。す。ま。へ。一。熟。有。る。に。和。後。高。運。中。一。て。富。高。の。家。に。世。の。元
 ら。是。控。室。に。通。さ。く。金。後。若。干。と。控。費。ま。る。の。と。成。り。お。後。を
 こそ。婦。娘。と。ま。書。の。物。も。た。り。是。今。の。め。き。思。案。も。成。り。つ。も。免。免
 家。の。子。と。生。れ。た。ん。は。い。ま。を。勤。る。樂。の。時。に。ま。や。巨。萬。の。金。と。有
 する。家。の。子。と。成。り。ま。ら。月。に。は。づ。ぬ。十。分。あ。る。事。を。と。我。後。に。大



丁子橋
千太郎
小夜郎
白雲

千太郎

大岡政談

八

辰屋堂藏版



小夜衣

大岡政談

辰屋堂藏版

令と著し。娼妓と受取せんといふ態と過にさるるの限りに有るべし。
 此間も娼妓と我に治らわらるる有り。家産の相違せし家あり。能く
 嫁と權を運へ千太郎に與んといふ。老人の心大抵娼妓の輩と忌
 む。況や身置き高の娘に於てとや。和唐坊々守の財宝と我物
 と成さぬ。能く消み惜めよかり。於て父が心ふも成り。さるる
 者に。托名藝妓の託と妻に持しめし。然して後心に快きや
 吾考へん。さるる。理り及て憐れおしく憐めたり。妻のお徳に倍に有
 て。夫婦の渝をいひ。たれと思ひけし。たれ極に異見と成り。妻
 夫と共けけり。能く妻と周旋あまじ。妻がまより。南侯せを妻
 父後とて。吾々の室下。換りの品をくして。只娼妓と帯めし。

ハ若き人の情に通せ。まねん。小若者と申すと思切らるるか
 必あ夫と謀り。迷く嫁女の媒妁はらん。父と執事の念とあ
 久し。まねを添ふに。千太郎。体承夫婦の術言とす。道理に
 循して。胸に憑へた。と心中小若者と思ひ切る。危前には
 舞く。是とに思ひ。婿も父の。今何ぞ改る事と為ん。去りあがり
 ばの人。我に託術と誓ふ。肩あそい。今のお後。怒に密に
 とあり。母も若父が身に。のる。有り。金銀と成に。大害
 有り。は病の術言に感泣せし。とあり。他言と止て。返るに
 かく事か。と先づ面とわづらひ。膝を進め。先生が。教諭とす
 て。病く。羞の。是たる。わし。僕に。年。り。ど。し。あ。る。戯る。に。思

五三流と訪りて嫁女と逢へしめ海に小夜歌が音及なり。田
 沢礼せ、我亦而自と夫乃難と成らん嫁の媒めはさるはいあ
 らふれがも確たる所と見知りまん進で言儀成し難し心に成め
 るて外変に見るこそと知りしは破佐初も夫令。自由は成
 事有るべしね。事起をまに起らん。君子人の忠と成るべし。
 折く梅子と折見えぬと挨拶しぬ。体永が先見明らぬ。千太
 郎、更に小夜歌と折る事難しむ。長巻が為に幸園の令を
 贈奪取らむ。宿定ふらむ。小夜歌も同様は。秋と散罪は。人
 と中し執事と止りたるも。一層の情活に冷炭又と成り。導
 事止む。終に久しむらむ。たは。海とのおと。一層と折るも。

因縁の成せる変り。是非もあむ事。も。千太郎心快
 とく。一。家。返り。如何は。金と。先
 せん。村井。長。雄
 文が。破。り。に。全。盛。の。傾。城。と。あり。ね。多。の。能。手。客。を。持。てる。赴。き
 と。寄。附。へ。て。心。に。較。計。と。事。折。く。根。巻。の。友。人。等。が。家。に。尋。る。所
 り。千。子。に。赴。いて。小。夜。歌。に。逢。ひ。客。の。梅。子。彼。を。と。問。尋。る。物。う。り。
 と。河。西。の。巨。商。千。太。郎。と。し。る。者。と。逢。く。云。う。一。二。廿。の。約。束。せ
 しく。其。妻。友。情。美。と。言。ひ。て。長。巻。小。夜。歌。を。贈。る。と。告。げ。其。客
 能。く。通。ひ。算。る。と。押。河。へ。小。夜。歌。の。涙。を。浮。め。は。絶。て。来。り。た
 ま。い。は。長。巻。と。逢。ひ。と。逢。り。た。る。に。昔。々。何。の。返。る。も。か。し。コ。ハ。何。が。ら

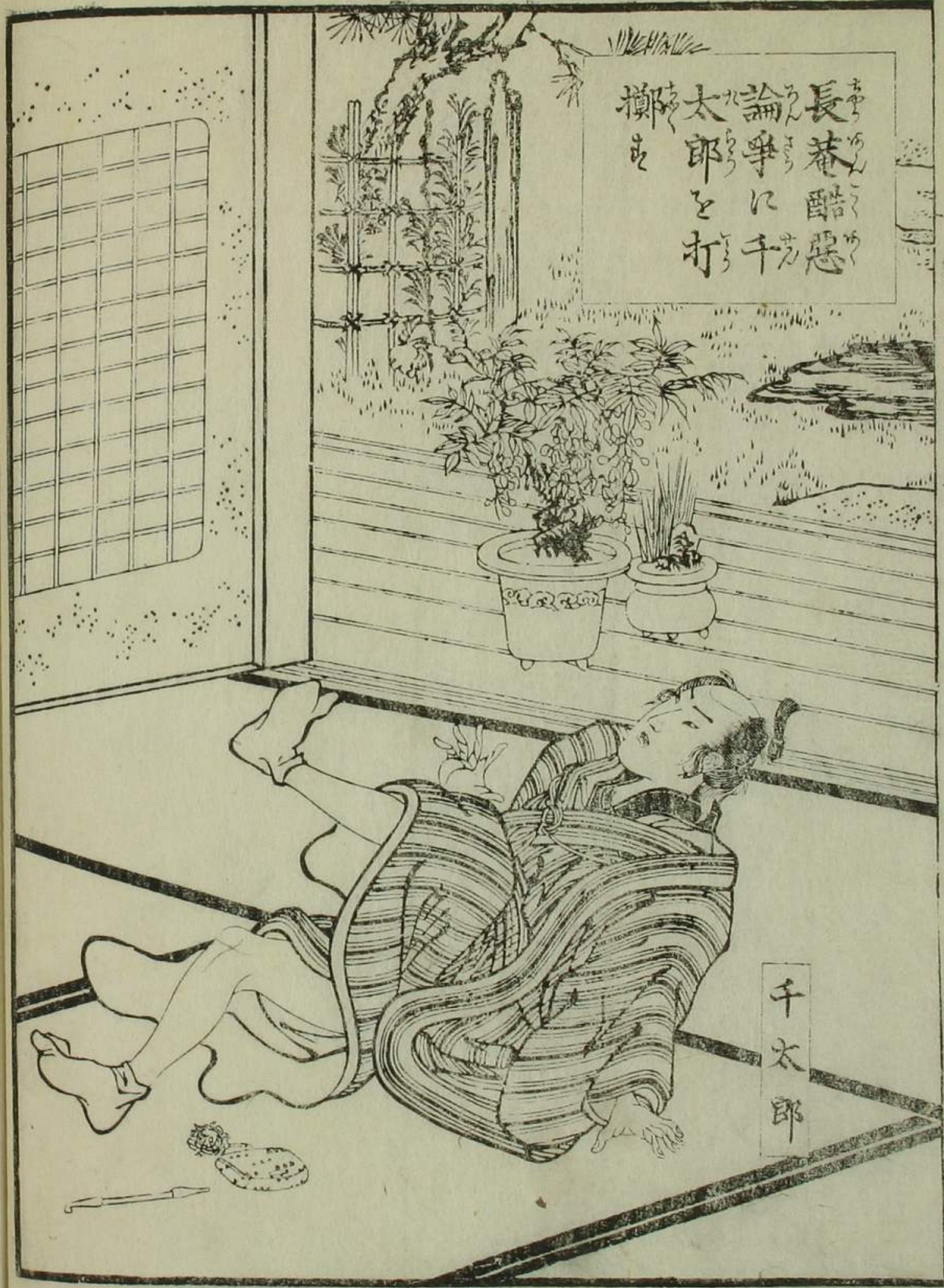


長 菴

大岡政談卷之六

〇十五

聚榮堂藏版



千 太郎

長菴 論争に 千太郎 打

大岡政談卷之六

聚榮堂藏版

中あらわぬ未長く世流も終り力に疲るものも推授
 了。願くは遺書と想の渡りけしむ長居元々懐中へ再
 傳へて自ら釣を返りり。新て忠告にまじり。指し傳へ思
 と運じ。忍懐拘に湧出けしむ。再び彼の割烹店に参り。又千を
 を運ぶて。満面憂と念。詔て告る由。小夜夜が歌に由
 忍老法で特形と好く。何法をば。小夜夜が場のまゝ巨
 に自愛さる。の由然るに商人和後があら。後心中懐く
 て身の定りあら。忍老より相續掛果る。の程。心我々
 も血肉を引。煙が身の上望を叶。おめな思へ。も大令の
 動きあら。我力に及ぶ。是ことお薦と。又。極め。何

中子支那の波。は二夜に。一。終る。ま。致。たり。と。何。巧。に。海
 方。も。あ。き。虚。情。と。迷。ぬ。子。を。弁。見。と。す。て。ま。ま。心。中。更。に。お
 か。も。結。ど。十。方。と。失。ひ。お。や。る。謀。に。成。て。我。を。に。入。ん。せ。ん。生
 僕。が。為。に。良。き。計。を。さ。す。ら。ば。お。や。ら。な。う。ね。味。ん。を。示。し。に。絶。が
 ん。と。さ。へ。は。名。信。は。深。し。ぬ。心。に。意。願。此。の。一。策。あり。親。の。病。し
 作。り。忍。免。身。更。せん。に。元。賣。一。車。回。り。高。後。巻。ふ。べ。六
 吾。海。受。合。中。あり。件。の。合。才。見。成。り。あり。官。情。を。引。更。事。人。と
 身。清。く。我。宅。へ。連。送。り。ま。ん。た。る。ま。ま。お。お。お。も。は。く。お。び。お。あ
 と。ま。ら。う。な。ま。に。心。を。お。く。て。お。留。合。を。お。合。宣。う。る。べ。然。し。て。後
 寛。時。に。見。合。せ。家。の。の。ま。ま。へ。う。程。新。の。忍。免。又。力。と。合。せ

へきと今ハ大子の二ノツ。迷く思案有久くと物むるに子太郎ハ
一心小夜敷に魂と籠たるお抽あわが。他人の祀と成すの口惜しき事
も。腰と進めく長居に向ひ如何もして五十金と才覚まべし。
明日の夕刻まをに母の家まを事りらるるも云へば長居頭と左
右に振り。ソハ不審心あるらるる本場の客への挨拶へ今日限り
一日遅刻してまたの集まらば腰と進めく冷あうらん。殊にきよ
ハとま地と結るの場所。影の今宵の内に件の令と受
知一日の因縁増と増け。我も安心候へば候へば通へば即
實にもと思惟し。然らば今より才覚して。酒へまへん。おまの
家に暫くは居らるる。酒へまへん。おまの家に暫くは居らるる。

つゝ。遷し々令の才と運らまに。初る巨商の客も。財五
十金の才覚成難く。鬼角とて宜らぬ。鬼念と發し。年々の性
合はまへ間に合を減らありと。客に商店の令五千円と貸み
中。日の暮るに再び料理屋に赴き。長居に逢く。金と酒へ
買まらる。酒とまげ。何卒力と減く。首尾能汁ひめを。令を
お中へてを渡しあり。聊の令やわらあり。文の二條とほ
りんと云へば長居大に笑ひ。おまの我と推し。思ふや。先になら
む。小夜敷が伯父と。姑息と汲なり。思ふ男に配せ。後思へば。そ
此の高後由もまを運べり。我慈心を發し。令を貸けん。有
らば。おまの家に住らす。本場の客が件にあり。を替く。おまの

後叙とて百令と振るの目あり。一燈を九人と宣つる。畢竟
 我と疑ひあふ。あめなる水具き。志と云。我の如く。ざりし。えん
 り。我為に。衣き。ゆに。非を。程。後。う。自。夢。も。掛。り。ゆ。人。出。身。中。夜。名。を
 控。ら。り。し。に。如。く。る。ゆ。な。し。と。更。九。人。と。宣。ふ。令。と。千。老。郎。が。あ。に。下。並。別
 見。返。ら。ん。と。滅。せ。六。千。老。郎。若。房。が。形。色。の。愛。う。た。る。と。見。て。志。に。袖。と
 ひ。う。た。の。と。か。後。ま。ひ。ひ。と。今。泥。の。九。人。は。凡。俗。書。の。書
 り。も。り。せ。し。癖。者。も。バ。何。心。あ。く。未。敷。と。中。たり。コ。ハ。僕。が。麻。呂
 かり。心。に。掛。け。る。ゆ。か。救。し。ゆ。ひ。と。と。物。解。つ。顔。に。正。と。下。て。程
 ち。ふ。若。房。形。に。形。色。と。あ。り。て。再。び。聲。に。若。と。今。と。九。人。め。て。千。老
 郎。小。白。ひ。後。も。偏。父。の。一。字。有。る。吾。海。姫。と。救。ひ。せ。と。我。悦。と

為。き。何。ぞ。詰。む。の。留。有。ん。力。足。る。も。は。有。る。迷。く。は。ま。出。し。も。せ
 ん。我。あ。り。今。夕。四。五。日。の。内。に。尋。ね。ま。り。り。と。一。と。号。も。作。不。を
 一。一。控。後。會。と。約。し。て。終。に。千。老。郎。に。あ。ま。と。告。げ。鞠。所。あ。を。送。り
 ち。う。若。房。の。思。つ。が。終。に。數。果。く。件。の。令。も。そ。品。川。の。娼。妓。が。件
 に。通。の。目。と。控。費。し。て。千。老。郎。若。房。乃。沙。汰。も。若。さ。り。か。し。も。千
 老。郎。の。中。大。に。疑。ひ。早。十。日。も。過。つ。る。に。便。の。あ。ま。い。我。が。行。以
 と。侍。所。に。ゆ。と。今。入。ら。も。過。へ。密。に。店。を。脱。出。下。鞠。所
 に。赴。て。二。丁。目。と。戸。毎。に。見。寄。り。と。若。房。が。家。を。尋。ね。る。に。漸。く
 て。知。り。し。く。若。房。地。入。て。偏。父。に。あ。ま。告。げ。完。了。あり。あ。り。と。門
 に。大。着。に。懸。ま。る。勢。有。く。さ。あ。る。村。井。若。房。千。老。郎。つ。ら。り

九段正言

舞臺

と八段も紅洲と云く業々する函の吾に白つて退去千方今一
夜中見よそをに夜中も有合ノ烟管を引く身と推へ肩肘張
て怒り有極に念驚きたる千太郎を急の涙を流しお後全
く持奪しあり。然も知ぬ人極と我に白し云ふとて向會せ
も幾夜ある。自ら望み見ねと云より長流を揚り汝も年も
の多む。何事も救し世に付たりたる急言宛早持お下と千
太郎が項を袖と引き入て足りて踏倒し持る烟管はく續さま
におけはる面とこころおの小紙を負たり。千太郎今ハ是出と己
吾信令ハ掠奪しに較ゆ。救せ末書者の奸賊と大書
揚り匂り思へ長流の戦に宿指をさすも今ハ何れ

より中一たる合ある。更後に鬼や角中や海は空に引き
引き。令の出をと控後及び。然して身を正さん青二五の汝
イザ傷く来るとと千太郎と引き引んとするに此方の胸に釘
お思ひ定へり。彼是とるあふ其の氣貫ゆ何
あつたに幾めんも知れぬ。殊に此の災難と今又陸永に論さ
世に事を思ひ出流し心に清め先づとて長流を委細に分
りたり宛早中へきるもあ。勅有るあへと。吾を堪へてあまを
つき。お和らぐに推しはる長流の世にあらく冷笑ひまるとそのし
初めより紙をくそ方か掠奪と却て紙を衝と云哉。若年か
がらも不屈ある。巻物に流し心と付て。若うもぬ心と出されぬと。

九段正言 舞臺

異見交りけ云都り。門口にて寢中。尻目に掛てお笑つ。
 奥に入ねる子吉郎。詮方なく。まじく銭家と云て。まじくは
 啗を喰つても。二階に揚て。指り傳々。思相も増さ。長宿の
 眼を涙したる。金知と云と云。我を豆鮫にあり。まじくは向て
 牛で萩。竹さき。ははに。お種。まん。の。踏。ま。の。今。は。も。鹿。角。堂
 の。中。の。引。員。つ。く。の。ひ。方。の。み。ら。され。は。の。一。大。さ。の
 走。う。う。ま。せ。ん。連。も。齟。齬。ふ。ら。の。運。命。今。う。鞠。の。に。押
 けて。運。奴。と。二。刀。恨。も。我。も。自。害。と。死。せん。の。と。終。に。覺。悟。を
 極。先。兼。て。う。り。皆。と。ま。る。是。の。根。元。と。持。出。し。自。ら。投。放。し
 て。お。眺。つ。是。を。は。身。の。消。ひ。白。刃。心。の。沸。や。逆。知。を。村。心。か。く。や

村井長信。只一付と。振。り。赤。緒。に。下。納。めて。双。眼。に。涙。を。流。れ。
 義。理。有。る。書。又。多。法。所。の。双。乳。も。先。ま。の。時。の。不。考。の。罪。も。も
 若。世。の。因。縁。の。成。り。受。赦。さ。せ。と。人。と。物。言。さ。つ。自。ら。決。切。に。成。し
 号。し。久。八。は。後。の。書。を。せ。せ。ん。が。有。ら。べ。う。は。妙。匠。か。り。に。脱。出
 せ。我。と。ま。ま。の。一。眼。を。ち。ん。然。り。く。く。者。今。公。祝。引。あ。り
 て。心。裏。に。行。く。書。恩。の。件。の。二。刀。腰。に。帯。し。ま。出。ん。と。成。り。お。ら
 ら。着。て。久。八。子。を。押。が。拳。動。を。あ。ま。ま。と。密。に。心。を。付。け。此。の
 極。と。露。の。見。る。より。忽。ち。衝。つ。入。算。つ。く。袖。を。ひ。く。移。り。は。り。ハ
 べ。い。る。の。極。子。僕。推。し。ま。せ。たり。年。生。異。見。申。上。り。通。り。今
 母。家。主人。臨。終。を。せ。り。今。時。の。所。有。皆。此。身。が。物。たる。お。知。バ。

大岡政談卷之八

東洋堂藏

